

多摩市議会議員 無所属

岩永ひさか ほうれんそう Report

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>

発行/岩永ひさかと夢・まち会議 Phone (留守番電話専用) / 042-371-0763



学校トイレの洋式化が進んでいます！

老朽化した学校トイレは臭気、現代の生活様式に合わない和便器など…、子どもたちがトイレに行くのを我慢し、体調の不良にもつながる深刻な課題です。多摩市では、小中学校の大規模改修が令和10年度以降に予定されている学校に限定し、学校トイレをすべて洋式化する方針で、今年度中に工事を完了する予定でした。ところが、コロナ禍に見舞われ、大規模改修工事のスケジュールの見直しが余儀なくされ、その結果、当初予定通りに大規模改修が進まず、老朽化した学校、そしてトイレの改修が遅れてしまういくつかの学校が生じることとなりました。

フェアな市政では、昨年9月の決算審査において、その点を指摘し、スケジュール見直しに伴う影響を加味した「トイレ改修の実施」について見解を質しました。

教育委員会は 国や都の補助金の動向も踏まえ、「鋭意調整していきたい」と前向きな姿勢を示していましたが、

12月議会において、まずは、来年度、大規模改修工事の時期が遅れることになった諏訪小学校のトイレ洋式化工事が行われることが明らかになり、安堵しています。

コロナ化で求められる「新しい生活様式」。今後は「感染症対策」の観点も考慮した快適なトイレ環境づくりが必要不可欠、「非接触型」を意識することは当然です。

また、学校は災害時の避難所になることを意識することも大切です。地域にとっても、使いやすい「学校のトイレ」は重要です。

無事に工事を完了し、子どもたちにとっても快適、地域にとってもいざというときに頼れる「学校トイレ」環境にしていきたいですね。

岩永ひさかは
学校トイレの洋式化を推進する
地方議員ネットワークに
賛同しています！

Change!



「あなたのニュースは文字がとんでも多い」「内容が難しい」…と言われるので、何とか文字数を減らして、もっと文章をわかりやすくして…と思うのですが、つつい書きすぎます。また、今回も文字がみっちりになってしまいました…。ぜひ、ご感想などお寄せ下さい！お待ちしております。

PROFILE

1977年 兵庫県神戸市生まれ/1989年 北諏訪小学校卒/1992年 桐朋女子中学校卒/1995年 桐朋女子高等学校(普通科)卒/1999年 中央大学法学部政治学科卒/1999年~2002年 中小企業金融公庫(今の日本政策金融公庫)勤務/2006年 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了(公共政策学修士)
2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙当選以降6回当選
2022年現在 議員歴20年 諏訪2丁目在住

Phone&Fax 留守番電話専用電話

お名前、ご用件と希望する連絡先・アドレスなどをお願いします。

☎: 042-371-0763 mail: hisaka_box@yahoo.co.jp

2022年、寅の年も新型コロナ禍で迎えることとなりました。ワクチンを接種していても、油断はできず、感染するという事実がすでに明らかになっており、ワクチンにより集団免疫を獲得できるようなことが言われていた去年のことをつい思い出してしまいます。

未知のウイルスであるからこそ、その対策は難しいとはいえ、「未完」という位置づけのワクチンの接種に対する不安の声も聞こえてくるのは当然のことと思います。ワクチン接種は強制ではありません。この原則は認識しておきたいと考えています。ワクチンを接種する、しないにより人々が分断されてしまうのは悲しく、寂しいことです。それぞれの生き方と考え方、そして、体質があり、人にはそれぞれ自分にとっての必要、不必要があることを受け止められる、多様性を認め合う自分でありたいと思っています。

すべての人たちが「よりよく生きる」ことを支援できる政治をつくっていきたくて心から思いながら、過ぎてきた時間の流れの早いこと早いこと…と振り返る年末年始でした。

一人ひとりのていねいな生き方と暮らしかたをつくっていくための支えになれるよう、引き続き、感謝の気持ちで日々と向き合っていこうと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

2022年1月

岩永ひさか

Policy & Style

公平公正な姿勢！

市民全体に向けた活動を心がけ、個人後援会はありません。

政策づくりが議員の仕事！

議員としての専門性を磨き、市民の自治力の向上をバックアップします。

話し合いが大切！

意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「第3の道」を見つける努力をします。

Pickup!



市内4駅にて朝の市政報告を再開！

市役所建替え問題。 何度も浮上し、結論が出せていない

先送りすることができない
切羽詰まった状況をどう打開する？

老朽化、耐震性能不足、狭隘化が課題になっている市役所本庁舎。

前市長時代には「多摩市役所庁舎の在り方懇談会」、阿部市長も平成28（2016）年度に「多摩市役所庁舎のあり方検討委員会」を設置し、協議を進めてきた課題です。その都度、検討結果は市長に対し報告されてきましたが、肝心の「どう建替えを進めるのか」については、いつのまにか立ち消えとなり、具体的な議論は常に先送り状態…現在に至っています。

しかし、本庁舎の一部は建物寿命の60年を目前に控えており、特に、耐震性能の不足は調査結果からも明らかであり、現状を先送りすることはできません。

「備えよ、常に」で即応できるか。

阿部市長は「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」において、令和11（2029）年度までに庁舎の建

替えを実施するとしています。先にも書いた通り、耐震性能不足は深刻な課題であり、災害時など緊急時には「災害対策本部」を設置しなければならないことを考えても、早急に今後の方向や方針を確定することが求められます。

「市民の生命と財産を守る責任」を果たすことが求められる市行政。発災時、耐震性能の不足により、市役所機能が十分に果たされないことは許されません。

「現状に課題あり」との認識があるにもかかわらず、対応をしてこなかった、あるいは対応しきれずに放置していたとなれば尚更のこと。その責任は重大です。

市議会でも総務常任委員会が情報収集を進めています。

一方、市議会においても、市長や行政に任せきりにするのではなく、取り組んでいかねばならないとの認識のもと、現在は、総務委員会が他市の先進事例の視察など情報収集を行いつつ、市庁舎建替えに向けた市の検討、取り組み状況について報告を受けながら、協議を進めているところです。

清瀬市役所。昨年5月から新庁舎での業務を開始しています。会派「フェアな市政」で早速、ヒアリング。新庁舎の屋上では「ミツバチの飼育」。ご当地ハチミツづくりに取り組んでいました。



新型コロナにより、当初の予定よりも遅れ遅れになりつつ、ようやく昨年12月17日、「多摩市役所本庁舎建替基本構想策定有識者懇談会」が発足しました。今回の懇談会では、令和11（2029）年度までに建替えを完了させることを前提に、今まで以上に具現性を兼ね備えた真剣な議論の展開が期待されます。

新しい視点を取り込んで。

今回の懇談会は令和4年度中に一定の方向を打ち出し「基本構想」を策定する予定で、市民にも傍聴を呼びかけ、全6回の懇談会が開催される運びです。

先月開催の第一回の懇談会を傍聴してきましたが、従来の議論ではさほど深まっていなかった「市役所業務のデジタル化」、それに伴う市職員の働き方改革にも視点を広げ、「新しい生活様式」を存分に意識した内容になりそうです。

「働きやすい環境」がよりよいまちづくりにつながる。

また、懇談会では「職員が快適に働ける労働環境が重要で、よい環境があって、よりよい仕事ができる。」と

いう発言もあり、職員の労働生産性をあげる観点から議論する必要性も指摘されていたことが印象的でした。長期的な展望を描き、将来の厳しい行財政を担う組織体制を見据えた建物づくりの視点を疎かにしてはならないと考えます。

そして、市民の利便性。

これまで、市民に利便性の高い駅前等、移転も検討されてきました。しかし、移転先を見定めることができず、一定、議論を積み上げてきた「市庁舎建替え問題」が中断されてきた事実是否めません。今回の懇談会でも「場所の問題には深く入らず」が前提になっているようですが、「令和11年（2029）年度まで」という期限を意識した議論を展開するうえで、「場所問題」にどう決着をつけるのか、その行方が最大の関心事になりそうです。

市民との合意形成をないがしろにせず、ていねいに説明責任を果たしながら、今後の取り組みを進めてほしいと思います。もちろん、コスト、財政出動についても非常に気になる所。私も注意深く議論を見守っていきます。どうぞ、みなさまのご意見などお寄せ下さい。

政治を身近なものに@浦和大学

若い世代の政治参加、18歳選挙権引下げ、政治教育などに取り組んでおられる林大介先生の授業にお招きをいただきました。大学生の皆さんから「議員は普段何をしてるの?」「なぜ、議員になったの?」などなど、素朴な問いかけを多数いただき、私にとっても原点を振り返る良い時間となりました。

